

第六期長期・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート
第9回実施分（令和5年1月16日開催） 自由記載欄
【傍聴者 会場7名・オンライン17名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者7名記載）

- ・子ども・教育分野の書きぶりが委員の意見がもっと入った方が良かったように思いました。いじめの指摘は大切な点です。
- ・無作為抽出によるアンケートの結果が「バイアスがある」という発言には大変驚いた。現状この方法以外にニュートラルな広聴のやり方があるとは思えない。それこそ偏った視点？と誤解を招く。客観的な発言をお願いします。
- ・委員さんの発言時間が偏ることのないよう全委員が発言できる進行をお願いします。（前半おひとりの発言がかなり長く感じました）
- ・屋外プール廃止レジャー的な要素（市民プールにはあった。その機能はどうなるのか）がなくなっていいのか。身近なところに家族や子ども同士で来て安心して使えるプールがあることは大切なのではないか。子ども、小学生等子育て世代、この利用者の声は十分拾えてないのではないか。今のコロナで夏に使う子どもたちの経験、使用者が少ないと、利用者アンケートもスポーツ、体育関係の人が多く。討議資料なのでということはわかるが、六長調の書き込みは重要なので、3案、2案はたとえば幼児プールや完全にコースに沿って泳ぐしかないようなプールが1つ or 小さいもの2つしかできないのではないか、のあたりが見えていない図なので、踏み込みすぎ、決断するには資料、情報不足というのはそのとおりと思う。討議要綱について市民が考えるときに0からできる施設ではなく、あった施設が変わるので、情報はもっとあるべき。今あるものが2案、3案だとどう、なくなる、減るものがあるのかは必要。改築必要などの根拠など多目的スペース必要なども。細かい部分をもっと情報も中身も工夫したら他の案でも解決になることがあると思う。市民に示されたアンケートの3つの案の説明では、ここに出ているもので比較するには情報不足とは思ふ。縮小は50メートル屋外だけではないこともありそう。機能縮小して金額10億以上アップも、中身がもっと見えないと納得できないというのは納得。討議要綱にこのように書いて、批判が多ければ撤回もあるという委員長の整理をしっかりと踏まえてほしい。そこまでの細かい比較ができるほどの情報、資料がないと思う。
- ・お粗末な資料と論理展開に基づく市営プール立替え問題
- ・プールのアンケート対象は難しいですね。屋外プール利用者にアンケートしたらまた異なった結果になったかもしれない。

- ・いじめについては子どもの権利条例ができたらいぶん書き込めるようになるのではないのでしょうか。
- ・プール跡地を四中の仮校舎の一部に使えないか。
- ・表記の統一はやったほうがいいです。それに加えて委員から確認があった「検討」「議論」「研究」などの意味を載せると読者の理解が進むのではないのでしょうか。
- ・「長計マター」難しいです。屋外プールのような大きな事業(予算的にも)などは長計で決めたほうがいい/決めるべきだと思う反面、策定委員としてはワーキングから得られる情報だけで判断するのは怖いと思うのは理解できます。
- ・個人的には「長計マター」がある限りは「長計に書き込んであるのだから何が何でも実行すべき」とか、「これ(事業)を実現するためには長計に書き込んでもらわなくては」という考え方が議会・市民に根強く残り、20年、30年先を見据えた10か年計画を考えづらくなるのではないかと思います(今回は調整計画なので5か年ですが)。「長計マター」とそうでない個別事業(全市的でない、市に一つだけではない、予算が大きくない、市政・市民等に大きな影響を及ぼさない、等)に明確な線引きをし、“そうでない個別事業”のほうは極力個別具体的に長計・調整計画に記載しない、としてはダメなのではないでしょうか。
- ・市民プールの議論をお聞きすると、長期計画で検討するのは、公共施設の新設や廃止を伴う場合なのでしょうね。
しかし、委員から指摘があったように、効率的な運営の方法も検討要素として大事かと思います。市民プールの場合、屋外プールの維持費用、廃止によって維持費用がなくなることを大まかに試算していますが、実は管理棟自体の維持費用の効率性の違いによるコスト増減もあるのではないのでしょうか。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。（傍聴者6名記載）

- ・P35のプラ収集は国の法改正に伴う対応に関するもの。（支出増につながる）
「脱プラ」「プラ削減」「SDGs」の趣旨は収集のあり方とは別に書くのがよいです。（委員さんが法改正のことをご存じなかったようですので）
- ・コロナ禍の中、また市内でさまざまな主張（分断を招くとも思える）がされている中、前向きで建設的な議論をして下さり、委員の皆さま、ご苦労さまと言いたいです。
- ・緑の憲章の存在は、委員さんたちには共有されているのでしょうか。
- ・「武蔵野百年史記述編」シリーズを読んでいます。昭和46年から始まった「市民参加」方式での長期計画策定は武蔵野市ならではの大事なとりくみだと思います。市民、市議、職員と一緒に市政をつくっていくことが、より継承していくために今回の策定委員会は大事なポイント点だと改めて思いました。が、難しいです。どうしたら市民が、子どもから大人まで関心を持ち、参画していけるか、職員の方々と一緒に考えていければと思います。市民意見交換会への参加を増やしたいです。
- ・議論に多くの時間を要した屋外プールの建て替えに問題の資料に関しては、あきれ落胆した。
令和4年度の市政アンケートでは「健康づくり」は重点施策の4位に入っている。また平成27年度に行われた市のスポーツに関するアンケート調査では、成人がスポーツや運動をする理由として、「健康の維持・体力づくり」は70%前後と圧倒的1位となっている。さらに厚生労働省の「標準的な運動プログラム」でも、ウォーキング、筋力トレーニングとともに水泳が推奨されている。
これらの調査・研究データを前提とすれば、市民の健康維持やフレイル対応を重視して、図書館同様に市民が日常的に利用しやすいよう、財政負担は少なくはないものの市内3か所程度に温水プールを整備しようという議論が議会や行政内部で行われて当然であるはずである。市のアンケート調査は経年的に行われているが、有効に活かされているのだろうかという疑問を感じてしまう。という疑問とともに、熱源が近くにあるから既存の温水プールの脇にさらに温水プールを付け加えるという安易な発想の資料作りにはあきれ果てた。
長期計画に取り入れる以上、多くの市民にとって決して利用しやすいとは言えない場所に温水プールを増設しようという場当たりの取り組みはやめて、市民の健康維持という根源的な議論からプールの配置や整備の是非を論じていただきたい。
体育館やプールの所管がスポーツ振興の役割を担う“教育部・生涯学習スポーツ課”であり、市民の健康維持の役割を担う“健康福祉部・健康課”は、カヤの外という組織構造上の問題も大きいと思う。それを調整し、適正化するのには市長や議会の役割であると思うのだが。

- ・文書全体的に UD フォントが使われていません。いっそのこと市のパソコンから明朝・ゴシック系は UD フォント以外を削除してしまってもいいかがでしょうか。プロポーションルフォントも日本語文書本文には向いていません。普段のパソコン画面作業でも誤字・誤読の原因になるのでできるだけプログラミングフォントを使うと仕事効率が上がります。

●中間評価案について UD フォントを使ってください。

●討議要綱案について

- ・UD フォントを使ってください。
- ・p. 43 「ICT 技術」→「ICT」
- ・地域活動支援センターの用語説明で「通わせ」は適切な表現ではないと思う。
- ・障害者福祉センターの機能については公共施設のバリアフリーと合わせて考えるべき。地域において分離が進み、インクルーシブな社会(地域共生社会)づくりと逆行する危険がある。
- ・地域活動支援センターについても同様。市が頑張るほど分離が進む。
- ・緑・環境分野では、長計からこの間、ナラ枯れという問題が発生した。調整計画では長計からの社会情勢の変化への対応が一番の目的なのでこれは検討課題の一つになるはず。樹木の管理については今までの考え方でいいのか。生物多様性や生態系という視点、管理コスト、老木の危険性などを科学的に考えた管理方法にシフトするべき。自然はいたって科学的です。

●市報特集号について

- ・UD フォントを使ってください。
- ・Culture とアンパサンドの間に空白がない。
- ・分野名だけを英語表記併記にしているのは目的分らない。
- ・p. 4 用語説明「多文化共生」の本文アスタリスクが多文化共生推進についています。ここはプランの固有名詞なので、次に出てくる「多文化共生*社会」につけてはいいかがでしょうか。
- ・p. 4 「つたえる」→「伝える」だと思います。漢字を閉じる開くなどの市の文書作成ルールがあれば統一したほうがいいと思います。
- ・p. 4 基本施策 5 の写真はどこでしょうか。
- ・p. 7 「ICT 技術」→「ICT」
- ・一般市民として分からないと感じたところを列挙します。
 - p. 2 「こども家庭センター」
 - p. 2 「地域の力」
 - p. 2 地域子ども館事業を充実させたら、なぜ全ての就学児童が放課後等を安全に過ごせるかわかりません。
 - p. 2 「まちぐるみ」
 - p. 2 「子どもと子育てを応援する事業」

- p. 2 幼保小の連携は確保するものなのでしょうか
- p. 2 むさしのクレスコース
- p. 2 「教育支援センター」
- p. 2 「家庭と子どもの支援員」
- p. 2 「困難を有する子どもや若者」「課題抱える児童生徒」
- p. 2 「開かれた学校づくり協議会」
- p. 5 「ゼロパートナー制度認定証」
- p. 6 「東京都と移管協議」
- p. 6 「三鷹駅北口周辺社会実験」

- ・ 前回のアンケートにも希望を書きましたが、ぜひ、2/9 市議会議員との意見交換会はオンライン傍聴をできるようにしてください。市議会議員のみなさまにもご理解いただきたいです。よろしくお願いたします。
- ・ 各委員のみなさんは真剣に議論されており、大きな観点、細かな点を含めて、質の高い議論が出来ていると思いました。市役所のみなさんを含めて、お疲れさまでしたが、引き続き、市民の意見を採り入れながら、よい望ましい長期調整計画の策定にご尽力いただければ幸いです。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。
また、委員名については削除しています。